適用形の通時的構文交替：「させていただく」「させてもらう」「させてくださる」「させてくれる」の選択に対する状態空間モデルを用いた時系列分析

大阪大学 人文学研究科
山田彬尭*

1　イントロダクション

日本語の適用（やりもらい）形には、(1) に見るように「てくれる（くださる）」や「てもらう（いただく）」がある。いずれも使役形態素と連結することが可能であり、話者が誰かの認知の下で動作を行う際に (2) のような構文が用いられる。

(1) a.　説明して {くれた/くださった}。　　(2) a. 説明させて {くれた/くださった}。
　　b.　説明して {もらった/いただいた}。　　b. 説明させて {もらった/いただいた}。

(3) の文が論理的な矛盾を示すことから、両者は同一の真理条件（命題的意味）を持つものと考えられるが、項の実現の仕方には違いが見られる。例えば (4)a が示すように「させてくれる／くださる」では、一人称（あるいは一人称に近しい人物）をガ格名詞句とすることはできず、ニ格名詞句には一人称（あるいは一人称に近しい人物）が来なければならない。一方で「させてもらう／いただく」では (4)b に見るようにこの関係が逆転する。

(3) a. *説明させてくださったが、説明させていただけなかった。
　　b. *説明させていただいたが、説明させてくださらなかった。

(4) a.　{先生/*私}が　{*先生/私}に　説明させて {くれた/くださった}。
　　b.　{*先生/私}が　{先生/*私}に　説明させて {もらった/いただいた}。

第 2 節で見るように先行研究でも、どちらの構文をどのようなときに選択するのかという点は検討されている。だが、通時的な変化についての精密な推測統計学的分析は十分に尽くされているとは言い難く、分析・解釈に大きな疑義が残っている。そこで本研究では、成立年におよそ 100 年ほどの開きを持つ青空文庫のテキストに対し状態空間モデルを用いた時系列分析を行い、新たに以下の点を明らかにする。

(5) a.　先行研究で主張された「させてくれる／いただく」の増加は明確には見られない。
　　b.　「させてもらう／いただく」を指向する動詞には (i)「邪魔する」「失礼する」など他者への迷惑を表明する動詞、(ii)「拝見する」「お目にかかる」などの謙譲動詞、(iii)「述べる」「調べる」などがある。
　　c.　「させてくれる／くださる」を指向する動詞には「満足する」「安心する」「感じる」「喜ぶ」「死ぬ」「忘れる」など動作主性の低い動詞が多く含まれる。
　　d.　(5)b(i)-(ii) については、項構造と行為遂行性や謙譲語の主語の性質から説明ができ、(5)c の一部の動詞には、項構造と命令文の性質に基づく説明が可能である。

* 本研究は、2022 年度基盤研究 (C)「コーパス言語学と実験言語学の統合：敬語の確率的構文交替を事例に（代表：山田彬尭）」（課題番号 22K00507）の助成を受けた研究成果の一部である。

2　先行研究

適用形の現代日本語における通時的発達について、椎名 (2021:151) は青空文庫と BCCWJ を比較し、(i)BCCWJ に「させてくれる」と「させていただく」の使用が多いことから日本語に歴史変化があったことを推論し、この変化は (ii)「遠近」という概念から説明できるという説を提案をしている。ここで言う「遠近」とは、言葉の上で他者に触れるのか（＝近接化）触れないのか（＝遠隔化）を指す。例えば、(4)a のように「くれる／くださる」では話者以外の人物が主語位置で言及されるため近接化が生じており、「くださる／いただく」は敬語表現なので対象者と話者の間に（比喩的な意味で）距離を置く遠隔化が生じていると言う。ここから、椎名 (2021:153) は (6) の分類を提案している。

(6)

言語形式	遠近（主語）	遠近（敬語）	表現全体	
くれる	近	近	近近	近接化作用
くださる	近	遠	近遠	↑
もらう	遠	近	近遠	↓
いただく	遠	遠	遠遠	遠隔化作用

通時的に割合の増えた「くれる」と「いただく」が最近接化・最遠隔化表現であることから言語体系がより極端な表現を好む方向へ変化したのだ、と椎名 (2021) は解釈をした上で、「させていただく」は「させてくださる」よりも遠隔化の度合いが高く、より後発表現であることから、既存の「させてくださる」が経年の使用で敬意の逓減を引き起こした結果、意図されていた高い敬意を表す適用形として「させていただく」が使われるようになったのだという「敬意逓減の法則」に基づく言語変化観を提案している。

だが、この仮説には以下の問題点が存在する。第一は、(4)b に示された「もらう／いただく」の人称制約が看過されていることである。これを考慮すると表は (7) のように書き換えられるはずで、するともはや「くださる」と「いただく」に非対称性を見出す根拠はなくなってしまう。また、もし「くださる」が「いただく」と比べて、敬意に劣るのであれば、最高位の敬意対象には「いただく」のみが使え「くださる」は使えないという予測になる。しかし、(8) の文のどちらも容認度に問題はなく、予測は経験的に否定される。

(7)

言語形式	遠近（主語）	遠近（目的語）	遠近（敬語）	表現全体
くれる	近	遠	近	近近遠
くださる	近	遠	遠	近遠遠
もらう	遠	近	近	近近遠
いただく	遠	近	遠	近遠遠

(8)　a. 天皇陛下が お話させてくださった。　b. 天皇陛下に お話させていただいた。

第二に、椎名が 20 世紀前半の日本語のみを反映するコーパスだと見なした青空文庫のテキストは、その成立年に 100 年ほどの幅があり、20 世紀前半のデータのみを表す言語データとは言い難い。青空文庫の BCCWJ に対して持つ独自性が時間変化を表しているものと誤って解釈されている可能性が存在するため、青空文庫のテキストを時系列デー

タと見なし、実際にどのように構文選択が変化をしたのか詳細に再検討する必要がある。そこで本研究では、青空文庫データに時系列構造を仮定した上で統計的分析を施し、その結果に基づき椎名の観察が指示されるかどうかを検討する。

3 データと分析手法

青空文庫で公開されている作家別作品一覧は HP（https://www.aozora.gr.jp/index_pages/person_all.html）で確認できる。[1]このリストの「XHTML/HTML ファイル URL」欄にある URL にアクセスし、統計ソフトウェア R におけるウェブスクレイピング・ライブラリである `rvest` パッケージの `read_html` 関数からテキストデータを取得した（最終アクセスは 2022 年 7 月 25 日である）。ルビやコメント等の情報を削除した後、`RMeCab` パッケージの `RMeCabText` 関数を用い、得られたテキストを形態素解析した上で、「せてくれる／くださる／もらう／いただく」の文例を 1,780 例抽出した。[2]

本研究では、(9) の表の変数に対し、(10) に示された動的一般化線形混合効果モデル（Dynamic Generalized Liner Mixed-Effects Model）を想定しこの状態空間モデルのパラメータを推測する（Hagiwara 2021, 山田 2022）。なお、t は青空文庫テキストが依拠している底本の初版発行年であり、i と j は j 番目の動詞の i 番目の事例を表す添え字である。β_1 は敬語形についての偏回帰係数である。$\beta_{0j}^{(t)}$ は時点 t におけるランダム切片であり、平均 $\gamma_{00}^{(t)}$、分散 σ_{00}^2 の正規分布に従う。$\gamma_{00}^{(t)}$ は分散 σ_w^2 でランダムウォークを行う。

(9)

変数	種類	説明
y	従属	そのデータが「てくれる（くださる）」形を用いたか（= 0）、「てもらう（いただく）」形を用いたか（= 1）を示す二値の変数
x_{ij}	固定効果	非敬語形（= 0）か、敬語形（= 1）を表すダミー変数
u_{0j}	変量効果	「X てくれる／…」の X の位置に来る動詞の独自性

(10)
$$y_{ij}^{(t)} \sim \text{Bern}(\text{inv_logit}(\beta_{0j}^{(t)} + \beta_1 x_{ij})) \qquad \beta_{0j}^{(t)} = \gamma_{00}^{(t)} + u_{0j}$$
$$u_{0j} \sim N(0, \sigma_{00}^2) \qquad \gamma_{00}^{(t)} \sim N(\gamma_{00}^{(t-1)}, \sigma_w^2)$$

[1] このリストには 18,476 件のテキストが含まれているが、(i) URL 欄が空欄であるもの、(ii) URL のリンクが切れているもの（多くは個人サーバーで公開した文書を青空文庫に紐づけていたもので、後に何らかの理由でそのサーバーが停止されたものと思われる）、(iii) 底本初版発行年が不明のものは、対象から外した。なお、翻訳書には原著と邦書の初版発行年が存在するが、本研究の目的はテキストとして記された日本語の特徴を見ることにあるため、後者の情報に基づいて分析を行う。またそれ以外の理由で同一著作で、同一の底本出版年を持つ事例は一つとしてカウントした。これらの前処理では 16,400 テキストに存在する 3,529 例が抽出されたが、モデルの収斂を向上させるため、変量効果の動詞を頻度が 10 回以上のものに、また、1919 年以降のデータに限ったため、1,780 例が最終的な分析対象となった。

[2] `MeCab` の検索結果では、(i) 漢字／ひらがなが異なると異なる形態素として分析されることから、また、(ii) 前接動詞の活用形の種類によって使役接辞を「する（せる）＋せる」という二語扱いしている場合と、「させる（せる）」という一語扱いしている場合が混在してしまうことから、次の検索式を用い事例を収集した。

(i) a. 語彙素 1 = (する|せる); 語彙素 2 = せる; 語彙素 3 = て; 語彙素 4 = (頂く|いただく)
b. 語彙素 1 = (させる|せる); 語彙素 2 = て; 語彙素 3 = (頂く|いただく)

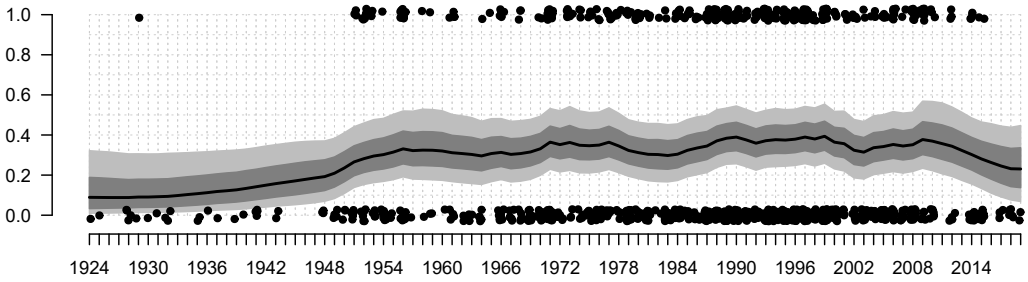
4　結果

各パラメータの事前分布については Stan のデフォルト設定である一様事前分布を利用した。R の `rstan` パッケージで Stan で記述されたコードを走らせ、$\hat{\mathrm{R}}$ の値を基に収束を確認した（thin = 1、warmup = 45,000、iteration = 55,000、adapt_delta = 0.995; $\hat{\mathrm{R}} < 1.004$）。

4.1　時系列変化

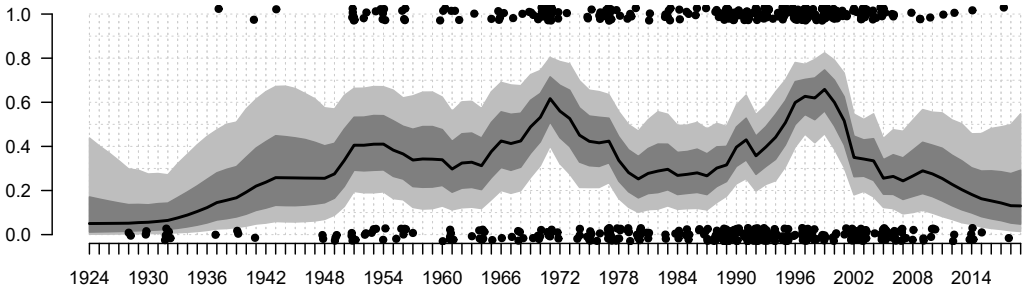
「させてくれる」vs.「させてもらう」. 第一に「『させてくれる 』が時代を下るにつれて使用を拡大させた」という椎名の観察を検討する。このために、各 t における $\gamma_{00}^{(t)}$（ランダムウォークが想定されたモデル切片であり、時点 t において、敬意がない「させてもらう」形が「させてくれる」形に対してどのくらい産出されやすいかを表すパラメータ）を変数変換した inv_logit($\gamma_{00}^{(t)}$) の事後分布に注目する（= (11)）。これはベースラインである「させてくれる」(0) 対「させてもらう」(1) の使用割合の移り変わりの推定である。これを見ると「させてくれる」の使用頻度の顕著な増加は認められない。

(11)



「させてくださる」vs.「させていただく」. 一方で「させてくださる」に対しどのくらい「させていただく」が用いられたのかその割合を推定した事後分布が (12) である。椎名は「させていただく」は敬意の下がった「させてくださる」の代替表現として近年使われるようになったという仮説を立てていたが、今回の時系列解析の結果からは「させていただく」が占める相対的な割合が大局的に増加しているとは言い難い（ただし、(11) と比べ (12) では、局所的な山が多数観察され、今回モデルに投入した変数の他に、何らかの要因、例えばジャンルなどの影響が存在している可能性が示唆される）。

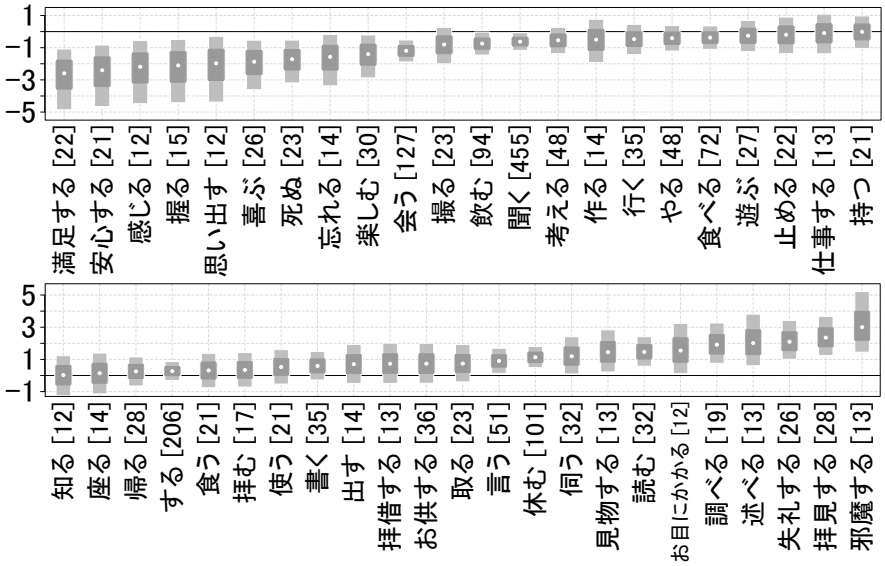
(12)



4.2　個別動詞の独自性

第 4.1 節で述べた結論は大局的な構文選択の傾向である。だが、「[X]（さ）せてくれる／もらう／くださる／いただく」の X の位置に来る動詞によっては、全体の傾向よりより「させてもらう／いただく」を取りやすい／にくいものもあろう。このような動詞独自の効果を表した変量効果の事後分布が (13) である（括弧内の数字は生起頻度である）。

(13)



「させてもらう／いただく」指向の強い（＝変量効果の値の大きい）動詞には「邪魔する」「失礼する」など他者への迷惑を表明する動詞、「拝見する」「お目にかかる」などの謙譲動詞に加え「述べる」「調べる」などの動詞が存在する。一方で、「させてくれる／くださる」指向の強い（＝変量効果の値の小さい）動詞には「満足する」「安心する」「感じる」「喜ぶ」「死ぬ」「忘れる」など動作主性の低い動詞が多く含まれる。

5　ディスカッション

(3) で確認をしたように、「させてくれる／くださる」と「させてもらう／いただく」の差は、（命題的）意味にはなく、項構造という統語的な性質に求められる。にもかかわらず、本動詞の意味的な性質で「させてくれる／くださる」と「させてもらう／いただく」の構文選択の傾向が変化する（ように見える）のはなぜであろうか。もちろん動詞一つ一つの傾向については詳細な検討が必要であるが、以下、両者の等価性が崩れる三つの条件に注目をすることで、いくつかのケースについてこの問題を考察する。

一つ目は、謙譲語の持つ制約である。謙譲本動詞の主語は「いただく」の主語と一致しやすいため「いただく」が用いられ主語に対するへりくだりの意味がエンコードされる場面では、自然に本動詞の方も謙譲語が用いられやすくなるものと考えられる。

二つ目は、行為遂行性である。「させてくれる／くださる」（例：帰らせてくださる）は「させてもらう／いただく」（例：帰らせていただく）とは違い行為遂行読みがない。これは、行為遂行読みには（時制が現在形であるなどの条件のほかに）主語が一人称であるという条件があり、これが前者の構文が持つ「主語に非一人称を用いる」という性質と矛盾するためだと考えられる。「邪魔する」や「失礼する」などは行為遂行的な意味での使用が多く、このため「させてもらう／いただく」指向が高いものと分析できる。

三つ目は、命令文である。「させてくれ／ください」（例：帰らせてくれ）は聞き手が話し手のために許可を与えることを依頼する表現であるのに対して、「させてもらえ／いただけ」（例：帰らせてもらえ）では誰かに許可を与えてもらうことで聞き手が利益享受者になることを求める表現である。この差は、主語の違いという前述の項構造の差から導き

出される。この差で説明される動詞に「安心する」がある。「聞き手が安心という利益の享受者になることを求める」ことよりも「話し手へ安心という利益をもたらすように依頼すること」の方が自然であるため、この動詞は命令形での使用が高く、このため「させてくれる／くださる」指向性が強まっているものと考えられる。

6　まとめと今後の課題

本研究では、時系列データであると見なした青空文庫のテキストを変量効果を含めた状態空間モデルで分析することで「させてもらう／いただく」および「させてくれる／くださる」を指向する動詞を実証的に同定し、項構造と行為遂行性や謙譲語の主語、命令文といった性質からそれらの構文選択の傾向に対する説明を行った。

先行研究との最大の相違点は構文の大局的使用傾向に関する一般化にある。第 2 節で椎名 (2021) が「させてくれる／させていただく」は頻度が増加したという前提に立ち、その理由を「敬意逓減」に求めたことを見たが、得られた分析結果はこの観察を積極的には支持しなかった。見かけ上の増加は、むしろ、年代に幅を持つ青空文庫のデータを一時点を示すものと見なしたことによるものと推察され、状態空間モデルを用いることでより正確な言語変化の観察が可能となるというその利点を示されたと言えよう。

一方で、これは適用形における言語変化を否定するものでもない。口語日本語では「3 月に大学を卒業させていただきました」のような事例が相手に許可をもらったわけではない会社の面接のような場面で使われるようになってきている（椎名 2021）。青空文庫は 20 世紀の文学作品の用例が多いことから本研究の分析結果からこの言語変化について明らかにすることは難しく口語コーパス等を用いた将来の研究が俟たれるところであるが、「敬意逓減」仮説に代わる別の仮説が必要であることは最後に指摘をしたい。例えば、(14)a から (14)b へ「許可使役」に対する捉え方が変化をし、さらに (14)c へと指示対象が変化した可能性は検討する価値があろう。これは、高校の先生だけでなく世の中の様々な人々のおかげで卒業が可能になったという自覚を表現することで謙虚な自己像が構築できることから、直接的な恩恵供与者でない対象にも「させてもらう／いただく」が使われるようになったという仮説で、メトニミーや「被支配者待遇」（石坂 1944）に基づく説明である。この仮説の是非を中心に変化の要因の検討が今後の研究で求められる。

(14) a.　[高校の先生方（ニ格名詞句の指示対象）に許可をもらったことで] 卒業できた。
　　b.　[高校の先生方がいなければ] 卒業できなかった。
　　c.　[高校の先生方を含め<u>様々な方々</u>がいなければ] 卒業できなかった。

参考文献

Hagiwara, Junichiro. 2021. *Time Series Analysis for the State-Space Model with R/Stan*. Singapore: Springer.

石坂正蔵. 1944.「敬語史論考」. 東京: 大八洲出版.

椎名美智. 2021.「『させていただく』の語用論」. 東京: ひつじ書房.

山田彬尭. 2022. イ形容詞文における丁寧語使用の歴史的変化：状態空間モデルを用いた時系列分析.「言語文化共同研究プロジェクト 2021 自然言語への理論的アプローチ」42–51.